**泉　風信子（いずみ・ふうしんし）**

**１、プロフィール**

津軽の風土と文化に根ざしつつ、「人間探求派」の精神に則った自由闊達な作風で全国的に活躍。俳論家としても知られ、多くの県内俳人の作家の紹介に努めた県俳壇の重鎮。

＜生没＞

1935（昭和10）年　～　2019（令和元）年９月29日

＜代表作＞

句集『熾火』『遠花火』、俳文集『志功まんだら』、随筆『弘前高校物語』、長編小説『皇帝の森』ほか。

＜青森との関わり＞

陸奥新報社常務取締。「此岸俳句会」代表。「青森県現代俳句協会」会長などを歴任。

**２、作家解説**

昭和10（1935）年に青森県青森市に生まれる。本名、泉嶺（いずみたかし）。

少年時代に満州で過ごす。古川中学校時代に野脇中学校生だった寺山修司と親交。寺山修司が寄居していた大叔父が経営する映画館「歌舞伎座」のスクリーン裏の寺山の部屋で、たびたび野球ゲームに興じる。

昭和26年に寺山修司と共に青森県立青森高等学校に入学するも、父の仕事の関係で同年、青森県立弘前高等学校卒業に転校。

昭和29年に同校を卒業。

昭和31年に陸奥新報社に入社。以後、文化部長、東京支社長、編集部長を経て、平成10（1998）年から平成16年まで常務取締役を務める。

入社後に当時上司だった船水以南（本名・船水清）の影響で俳句を始め、平成３年に全国俳句結社「陸」に入会し同人となる。また同時期に弘前市において「此岸俳句会」を創設し代表を務める。俳句を船水以南、秋元不死男に師事。

以後、青森県現代俳句協会会長、県俳句懇話会副会長などを歴任。

また、俳句の他、いずみ涼のペンネームで小説家としても活躍し、清国最後の皇帝溥儀と侍従長工藤忠（青森県板柳町出身）を描いた長編小説『皇帝の森』で、第６回青森県文芸大賞を受賞。

生涯を通じて津軽の風土と文化に根ざしつつ、現代俳句の潮流のひとつである｢人間探求派｣の精神を大切にした俳句を作り続けた。

2019（令和元）年９月29日、心筋梗塞のため逝去（享年84）。